



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言

1ページ

新人紹介

2-3ページ

事務局通信

4-8ページ

地域局

(大隅地区担当)

9ページ

社会局

(公共事業・保険)

10ページ

社会局

(地域リハ・広域)

11ページ

社会局

(地域リハ・市内)

12ページ

社会局

(広報局)

13-14ページ

学術局

(新人教育)

15ページ

学術局

(生涯学習)

16ページ

学術局(成人)

17ページ

学術局(小児)

18ページ

財務局

編集男誌

19ページ

巻頭言

学術局 新人教育担当 木佐貴 太陽

このたび、学術局新人教育担当となりました鹿児島第一医療リハビリ専門学校の木佐貴と申します。今期より理事を拝命いたしましたので、僭越ながらこの巻頭言にてご挨拶をさせていただきます。

日本言語聴覚士のホームページに、「倫理綱領」が記載されています。倫理規定として言語聴覚士の職業倫理が示されており、その中に「職業の専門性と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるよう心掛ける」という一文があります。専門性をいかにして定め、磨き、学びを深めるか、成人、小児と幅広く対応していくSTの職域の広さ＝可能性と、多様化するニーズに対して我々がどう研鑽していくべきなのかを考えさせられる一文です。さらに人格とは思考、判断、振る舞いに顕れることを考えつつ、日頃の自らの言動を省みると、恥ずかしさで免許返納を検討したくなります。救いは「心掛ける」となっているところで、今後の成長を含めても良い（と解釈できる）ことでしょうか。

養成校時代の実習の最後に、教育者の先生が日誌に「これから出会う対象者の方々にひとつでも多くの選択肢を提示できるように、思考を止めないでください」という一文を書いてくださいました。その後の実習中も、言語聴覚士として働きだしてからも、職場が変わっても、その言葉は胸に刻まれていて、考えることを諦めない原動力になっています。今の自分では解決の糸口が掴めないとき、私たちは自らをバージョンアップする必要に迫られます。退院していく対象者の方を見送るとき、「もっとできることがあったはず」と考えます。学生を指導するとき、「STの仕事の楽しさをどう伝えればよいのだろう」と考えます。広く深いSTの仕事について悩むとき、すぐに答えが見つからないときが必ず訪れると思います。でも、私たちには同じ悩みを抱える院内外の同期や、同じような経験を知恵と工夫で乗り越え、道を切り拓いてくれた先輩たちがいます。私たちにはできることは、仲間の力を借りながらひとつひとつ提示できる選択肢を増やし、これから出会う対象者の方々へ還元できるよう考え続けていくことではないでしょうか。

拝命した任期の目標は、「仲間の存在を感じ、楽しく研鑽し続けられる場所を増やす」です。若輩者でございますので、不安とプレッシャーを大いに感じつつ、実は皆様からのご協力を心から当てにしております。ワイワイガヤガヤとした楽しい場所を増やしていくお手伝いをさせて頂ければと思いますので、研修会には是非ともご参加ください。皆様とお会いできる日を楽しみに、頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

学術局 新人教育担当 木佐貴太陽
「こんな研修会してほしい！」はこちらまで！↓
【Mail】 taiyo.kisanuki.st@gmail.com

新人紹介 医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル 本村 洸人

私は令和5年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業いたしました。現在は鹿児島市高麗町にある医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタルで言語聴覚士として働いております。当院は、回復期病棟48床、地域包括ケア病棟37床、地域一般病棟17床、医療療養病棟96床を備えており、一般内科外来、消化器内科や循環器内科などの専門外来を加えた外来医療を提供しております。

私は現在回復期病棟での勤務をしており、周りの先輩方にサポートを頂きながら、日々患者様と向き合っています。入職当初は緊張もあり、組織のルールや職員の方々の顔と名前を覚えるので精一杯でした。ですが1ヶ月、2ヶ月と過ぎていき、業務に慣れていくことでスケジュール管理や臨機応変な対応ができるようになってきました。現在は先輩STから引き継いだ患者様だけでなく、新しく来られた患者様も1人で任せて頂けるようになり、程よい緊張感と自信を持って業務に取り組むことができます。

実際の臨床現場で働くようになって特に感じることは、「セラピストの実績は患者様には関係がない」ということです。患者様は自身に関わるセラピストが入職1ヶ月目の新人であろうが、10年目のベテランであろうが、同じように信頼し、同じように接して来られます。その患者様に対して「自分は入職したばかりだから」「自分は経験が少ないから」と消極的な考えを持って接していると、患者様との信頼関係は築いていけません。今振り返ると、私が入職1～2ヶ月目で経験した様々な失敗は自信のなさから来たものであったと思います。しかし、その経験を経たことによって、今は「患者様の前では1人のセラピストとして堂々と向き合おう」と思っていますし、その自信をつけるために教材や論文を開くこと、先輩方へ相談をすること、勉強会やセミナーに参加することを惜しまず行うようになりました。半年を過ぎた今では、少しずつ自分の中の引き出しも増え、患者様と真剣に時に楽しく面白くりハビリを行うことができるようになってきました。

これからさまざまな患者様と出会い、時には患者様から叱咤激励を頂く事もあるでしょうが、良い事も悪い事も全てが成長の肥やしになると信じ、前向きに取り組んでいければと思っています。セラピストは患者様を支える側の立場ではありますが、時には患者様に、あるいは同じ職場の先輩方、他職種の方々に支えて頂きながら、自分自身も患者様と一緒に成長していけるような言語聴覚士を目指して行こうと思います。

新人紹介

医療法人クオラ クオラリハビリテーション病院 中元 ひかる

私は今春、鹿児島医療技術専門学校を卒業し、4月よりさつま町にある医療法人クオラ クオラリハビリテーション病院に言語聴覚士として勤務しております。

当グループには病院の他、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、児童発達支援センター等の施設を有しております。当院は回復期リハビリテーション病棟（58床）、一般病棟（60床）、療養病棟（54床）から構成されており、STは回復期リハ病棟の脳血管疾患や慢性期の患者様のリハをしています。私は主に回復期病棟、療養病棟、小児外来など小児から成人までの患者様に携わらせていただいております。入職して半年が経過しようとしています。当初は緊張や不安でいっぱい、職場に慣れることに必死でした。また言語聴覚士としての職務はもちろんのこと、書類業務などリハビリ業務以外にも覚えることが多く、業務をこなすことで精いっぱいでした。臨床場面においては、患者様とのラポール形成に特に難しさを感じました。緊張してしまって自分が一方的に話してしまい、患者様の反応を待つということが出来ませんでした。その時に知識だけではなく、礼節や言葉遣い、会話の間なども重要であると強く感じました。

また、リハビリを行う中で他職種の方とのコミュニケーションの必要性を強く感じており、他職種連携の大切さを改めて感じました。自分のSTとしてのリハビリにも不安しかなく、本当にこれでいいのかという思いがあります。しかし、ST内で行われているミニカンファレンスで先輩方からの指導やアドバイスを頂きながら日々患者様に一生懸命向き合っています。

当院の特徴であると思いますが、PTの先輩方が患者様のリハビリに一緒に入り、姿勢の評価や介入方法などについて直接指導いただく機会もあり、とても勉強になっています。PT・OT領域のことを学ぶことで、患者様をみる視野が幾ばくか広がったように感じます。

今後は「わからないことをそのままにしない」ということを意識しながら患者様に対し自分のできる精一杯のリハビリを提供していきたいと考えております。勉強会や研修会に積極的に参加し、自己研鑽に励み、知識や技術を習得しながら臨床に励んでいきたいです。



事務局通信

3月

- ・令和4年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会について報告があった。
- ・介護予防事業お達者クラブの来年度予定について報告があった。
- ・県土会ホームページ、研修会および求人案内について更新の報告があった。
- ・ニューズペーパー43号発行予定について報告があった。
- ・小児研修会（3月26日）について開催報告があった。
- ・第22回新人教育研修会の報告があった。
- ・令和4年度下半期生涯学習基礎講座の報告があった
- ・公式LINEの配信頻度について随時配信する旨の報告があった。
- ・公式LINEアンケート報告があった。
- ・第1回失語・認知・高次脳機能部会研修会開催報告があった。
- ・始良霧島地区勉強会・交流会開催報告があった。
- ・北薩・大隅地区合同症例研究発表会開催報告があった。
- ・第12回口腔機能推進協議会参加報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・介護予防推進リーダー研修会について報告があった。
- ・鹿児島県リハビリテーション施設協議会20周年記念リハフェスティバル準備委員会参加報告があった。
- ・鹿児島県障害者支援室室長および担当者との打ち合わせについて報告があった
- ・会員動向について協議され承認された。
- ・令和5年度定時社員総会および学術講習会について協議され対面・Webのハイブリット開催となった。
- ・令和5年度鹿児島市介護予防地域ケア会議における助言者派遣について協議され、中部を石原氏、南部を小牧氏とし、北部を継続審議とした。
- ・今後の研修会におけるハイブリット開催運用について協議され、継続審議となった。
- ・学術局パソコンを買い替えることとした。
- ・今後の基礎講座講師について、松永氏、小牧氏、有川氏を追加することとした。
- ・4月開催予定の鹿児島地区勉強会計画について協議され承認された。
- ・会員への情報共有について協議され、令和5年度社員総会までメール配信を行うこととした。
- ・来年度計画および予算について協議され、継続審議となった。

4月

- ・県土会ホームページ更新について報告があった。
- ・令和5年度鹿児島県言語聴覚士会学術講習会案内について報告された。
- ・新生児聴覚検査の実施状況について報告された。
- ・鹿児島地区勉強会計画について報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。

- ・言語聴覚士養成所指定規則について、県内養成校（医技専・第一医療）教員より情報共有・相談があった旨の報告があった。
 - ・会員動向について協議され承認された。
 - ・指宿市発達相談会への講師派遣について協議され、菊野病院（志水氏）を推薦することとした。
 - ・心身障害者総合福祉センターからの講師派遣について協議され、発達部会から推薦することとした。
 - ・日本老年療法学科学術集会後援依頼に関して協議され、後援することとした。
- 令和5年度介護実習・普及センターからの介護講座講師派遣について協議され、樋渡氏、竹中氏、尾崎氏、有川氏、瀬崎氏、松尾氏、黒木氏、小倉氏とした。なお、知名町開催分の講師は継続審議となった。
- ・臨床相談に対する応答者への予算について協議され、承認された。
 - ・今後の研究会ハイブリット（対面・Web）運用について協議され、備品は購入し、開催場所に関しては、一施設に負担にならないよう理事会についてその都度検討することとした。

5月

- ・Teams有料化に伴う進捗状況について報告があった。
- ・令和5年度介護予防地域ケア会議について報告があった。
- ・介護予防事業お達者クラブについて上半期講師マッチングに関する報告があった。
- ・介護予防新任講師必須研修会、事前説明会計画について報告があった。
- ・県土会ホームページ更新について報告があった。
- ・令和5年度鹿児島県言語聴覚士会学術講習会申し込み状況について報告があった。
- ・令和5年度上半期新人教育研修会計画について報告があった。
- ・令和5年度新人教育研修会および生涯学習基礎講座開催場所について、今年度は上半期下半期ともに鹿児島医療技術専門学校とし、次年度以降は鹿児島医療技術専門学校と第一医療リハビリ専門学校と交互で行えるように計画している旨の報告があった。
- ・鹿児島地区勉強会について開催報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・県PTOTST連絡協議会主催研修会計画について報告があった。
- ・九州地区代表者会議について報告があった。
- ・令和5年度予算案について報告があった。
- ・鹿児島県訪問リハビリテーション研究会の活動計画について報告があった。
- ・会員動向について協議され承認された。
- ・県土会ホームページサーバー移行について協議され承認された。
- ・心身障害者総合福祉センターからの講師派遣について、発達部会メンバー下村氏を推薦することとした。
- ・始良市地域ケア個別会議助言者に協議され、地域局（始良霧島地区）担当理事より推薦することとした。

6月

- ・令和5年度介護教室講師派遣（知名町）について報告があり、安原氏を推薦する旨の報告があった。
- ・令和5年度介護教室派遣事業（屋久島町）について報告があった。
- ・介護予防事業お達者クラブについて講師マッチング状況の報告があった。
- ・県士会ホームページ更新について報告された。
- ・令和5年度鹿児島県言語聴覚士会学術集会の参加登録状況について報告があった。
- ・鹿児島聾学校教員と言語聴覚士との意見交換会が計画されている旨の報告があった。
- ・第23回新人教育研修会計画の報告があった（講師：山下氏）。
- ・令和5年度上半期生涯学習基礎講座計画の報告があった（講師：染川氏）。
- ・鹿児島市医報8号寄稿依頼があった旨の報告があった。
- ・令和5年度県士会年会費納入状況について報告された。
- ・鹿児島県訪問リハビリテーション地域リーダー会議開催について報告された。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・県PTOTST連絡協議会主催研修会計画について報告があった。
- ・日本言語聴覚士協会令和5年度定時社員総会出席報告があった。
- ・リハビリテーションフェスティバルかごしま準備委員会出席報告があった。
- ・鹿児島JRAT役員会および総会出席報告があった。
- ・会員動向について協議され承認された。
- ・リハビリテーションフェスティバルかごしまへの後援名義使用について協議され承認された。
- ・2023年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修修了者の集い参加者に関して協議され、会員へ周知することとした。
- ・失語全国大会 in やまなしへの協賛及び広告掲載に関して協議され、広告を出すこととした。
- ・基礎講座運営に関する調査（協会より依頼）の回答者に関して協議され、学術局（生涯学習担当）が回答することとした。
- ・指宿市親子教室への講師派遣に関して協議され、菊野病院（志水氏）を推薦することとした。
- ・令和5年度地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修計画について協議され承認された。
- ・市民健康まつり計画について協議され承認された。

7月

- ・介護実習・普及センター関連研修会の計画が報告された。
- ・令和5年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修計画について報告があった。
- ・介護予防事業お達者クラブの計画について報告があった。
- ・県士会ホームページ更新について報告があった。
- ・言語聴覚の日イベント計画について報告があった。
- ・第44号ニューズペーパー計画について報告があった。

- ・第23回新人教育研修会計画について報告があった。
- ・令和5年度上半期生涯学習基礎講座計画について報告があった。
- ・市民健康まつり計画について報告があった。
- ・公式LINE登録状況について報告があった。
- ・県士会年会費納入状況について報告があった。
- ・インボイス制度に関わる作業について報告があった。
- ・鹿児島JRAT事務局会議について報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・PTOTST連絡協議会理事会出席について報告があった
- ・PTOTST連絡協議会定時社員総会出席について報告があった。
- ・地域リハビリテーション関連事業について報告があった。
- ・都道府県士会会長会議出席報告があった。
- ・会員動向について協議され承認された。
- ・口蓋裂言語セラピー勉強会について協議され承認された。

8月

- ・介護実習・普及センター関連研修会計画について報告があった。
- ・令和5年度介護予防教室派遣事業について報告があった。
- ・令和5年度 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修計画について報告があった。
- ・鹿児島県専門職アドバイザー意見交換会について参加予定である旨の報告があった（石原氏、樋渡氏）。
- ・介護予防事業お達者クラブの計画について報告があった。
- ・県士会ホームページ更新について報告があった。
- ・言語聴覚の日イベント計画について報告があった。
- ・第23回新人教育研修会計画について報告があった。
- ・令和5年度上半期生涯学習基礎講座計画について報告があった。
- ・市民健康まつり参加報告があった。
- ・令和5年度 地域介護講（志布志市）の報告があった。
- ・鹿児島県訪問リハ実務者研修会（9月30日）の案内について報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・県PTOTST連絡協議会主催研修会計画について報告があった。
- ・2024年度九州地区学術集会鹿児島大会の実行委員について協議中の旨報告があった。
- ・会員動向について協議され承認された。
- ・ホームページ活動報告について協議され、各活動主担当者が更新することとした。
- ・今後の研修会のあり方について協議され、学術局にて検討することとした。
- ・研修会感染対策について協議され、一部文言を変更することとした。
- ・公式LINE配信について協議され、ファイル等ダウンロードが必要な配信に関しては、ホームページにも掲載することとした。

- ・ゆうちょ銀行に関わるログイン方法について協議され、財務局と学術局で協議し来月理事会にて報告することとなった。

- ・今後の理事会のありかた（対面開催や回数等）について協議され継続審議となった。

9月

- ・田中まさし氏講習会参加報告があった。

- ・鹿児島県次年度方針および予算折衝に関わる打ち合わせに参加予定である旨の報告があった。

- ・介護実習・普及センター関連研修会計画について報告があった。

- ・令和5年度 介護教室派遣事業について報告があった。

- ・令和5年度保険者機能強化事業専門職アドバイザー情報交換会出席について報告があった。

- ・介護予防事業お達者クラブの計画について報告があった。

- ・県士会ホームページ更新について報告があった。

- ・言語聴覚の日イベント開催方向があった。

- ・第23回新人教育研修会開催報告があった。

- ・令和5年度上半期生涯学習基礎講座開催報告があった。

- ・ゆうちょ銀行に関わるログイン方法について、現在のログイン方法から変更することとした。

- ・令和5年度第14愛訪問リハ・地域リーダー会議の参加報告があった。

- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。

- ・県PTOTST連絡協議会主催研修会計画について報告があった。

- ・福祉介護のしごと就職・転職フェア（北薩地域）ポスター・チラシ掲示依頼があった旨の報告があった。

- ・会員動向について協議され承認された。

- ・快護フェス福祉機器展&セミナー in かごしま後援に関して協議され、後援することとした。

- ・京都府言語聴覚士会吃音アンケートに関する回答内容について協議された。回答は松尾が行うこととした。

- ・鹿児島県保険者機能強化事業専門職アドバイザー（ST担当）の役割と増員について協議され、まずは県の方針（専門職アドバイザーの定義や職務内容等）を確認し検討することとした。なお、まずは1名増員（川路勇太氏）することとした。

- ・今後の研修会のあり方について協議され、啓発（広報）を複数回行い、顔が見える関係づくりについて工夫することとした。研修会内容については来年度協議することとした。

- ・北薩地区症例検討会について協議され、承認された。

- ・リハビリテーションフェスティバル会場係について協議され、責任者を瀬崎氏とし、副責任者を原口会長が選任することとした。

- ・第13回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会実行委員および実行委員会開催について協議され、承認された。

地域局（大隅地区担当）

みなさんはじめまして！大隅地域担当の瀬崎と申します。

大隅地域担当理事に就任し1年半が経過しました。2月には地域局の方々の協力をいただきながら、オンラインでの症例研究発表会を開催することができました。北薩と大隅地域での合同開催でしたが、地域を超えて多くの方々にご参加いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。数名ではありましたが県外からの参加もあり、主催側としてオンライン開催のメリットを実感したとともに、皆さんと直接ディスカッション出来ないもどかしさも感じました。

さて、今年度も半分が経過しようとしています。5月には新型コロナウイルスの感染症分類が5類へ移行し、世の中に活気が戻ってきました。学会や研修会も現地開催されるものが増えてきました。しかしながら、臨床現場では今もなお感染症対策に細心の注意を払う毎日です。まさか、フェイスシールドをして言語リハをするなんて5年前は思ってもいませんでした。地域局理事に就任し1年半が経過しますが、顔を知らない地域会員が多くいます。もしかしたら、今、隣で資料作りをしている女性はSTかもしれない・・・なんて余計な想像をしています（笑）。同じ地域で働くST同士、気兼ねなく語り合える日が来ることを願います。そして、その時が来たら、安心して集える交流会（場）が開催できるように準備をしておきます。

最後に、皆様へお願いがございます。地域局では会員への情報配信をメールからLINEへ移行いたしました。現在会員の6～7割ほど登録をいただいています。まだ登録がお済みでない方や職場などに登録されていない会員の方がいらっしゃいましたら、ご登録くださいますよう（登録を促すお声かけ）、宜しくお願いいたします。

また、情報配信だけではなく、会員の皆様とより身近に繋がれるよう、LINEの活用方法について今後検討していきたいと思います。今後ともご協力宜しくお願いいたします。

大隅地区担当理事
瀬崎雅子



社会局（公共事業・保険担当）

令和5年度より、前理事である樋渡健太郎さんの任期満了に伴い、新たに理事となりました末吉が、社会局の公共事業と保険部門を担当させていただいております。会員の皆様のお役に立てるように努めてまいります。

今年度の公共事業は、鹿児島県介護実習・普及センターより、例年通り9件の介護講座の講師依頼を頂きました。介護講座では、県内各地で行われる摂食嚥下に関する介助方法についての講義を鹿児島県言語聴覚士会が担っています。県民の皆様の期待に応えられるように、地方公共団体との連携をとり、講師の選任と滞りない派遣を行なって参ります。

保険部門では、会員の皆様からお問い合わせ頂いた、診療報酬・介護報酬に関するご相談を主に承っております。来年度は、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定（いわゆるトリプル改定）があり、今年度は既に2件、鹿児島県リハビリテーション施設協議会主催の厚生労働省職員（眞鍋課長）の「診療報酬改定に関する特別講演」や鹿児島県PT OT ST連絡協議会主催の田中昌史議員と宮地拓馬議員による「トリプル改定に向けた研修会」のご案内をさせて頂きました。徐々にトリプル改定の方向性と課題が明らかになってきており、会員の皆様の職場でも、医療・介護分野のDX化や地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みが進んでいる事と思います。

診療報酬・介護報酬をはじめ施設基準等に関するご相談は、複雑な内容の場合、日本言語聴覚士協会にお問い合わせいただくこともありますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずはお気軽に県士会にお問い合わせいただきたいと思いますと考えております。

鹿児島県介護実習・普及センターのご紹介

県民が住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らし続けることができるように、居宅で介護をされるご家族や福祉施設等の介護専門職員を対象に講座や研修を運営しています。また、かごしま県民交流センターにて、高齢者の方々の生活と心を支える福祉用具や介護ロボットの展示・体験・相談も行っており、失語症者向け意思疎通支援事業の実習（身体介助）でも福祉用具を利用させて頂いています。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>

医療法人 玉昌会 加治木温泉病院
総合リハビリテーションセンター 末吉 孝行
TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778

社会局（地域リハ・広域担当）

今期より地域リハ・広域担当理事を務めさせていただくことになりました。

2023年8月6日 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業の初期研修をオンラインにて開催し、7名の方に参加していただきました。今回より研修内容がアップデートされ、地域ケア個別会議を想定したグループワークでは、模擬ケースの課題の分析や支援方法の提案をグループごとに発表し、情報共有することが出来ました。

現在、国全体として、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。皆さん、地域包括ケアシステムとは何かご存知でしょうか。地域包括ケアシステムとは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的とし、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域で包括的な支援・サービスを提供していく体制のことです。

2035年には85歳以上の高齢者が1,000万人を超え、要介護高齢者が増加することで、支える側のサービス提供体制や、生活支援ニーズに対応する体制を整備していく必要があります。さらに、2040年には20～64歳の生産年齢人口の1,000万人以上減少し、高齢化による影響に加え、少子化による影響が顕在化する見通しとなっており、2025年以降も地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアシステムの深化が求められています。

地域包括ケアシステムの推進に重要な地域リハビリテーションに関し、昨年度の都道府県言語聴覚士会の活動状況において以下のような調査結果が出されました。地域ケア会議や住民主体の通いの場、専門職との勉強会への会員の紹介・派遣件数（紹介・派遣を行った46士会中31士会の回答）が3回から300回、派遣市町村数が1から48か所、活動する会員数が1から100人以上と地域差がみられたとされています。私たち鹿児島県言語聴覚士会においても、地域リハビリテーションに従事している人数は決して多いとは言えない現状です。また、鹿児島県は日本有数の離島県であり、その中には言語聴覚士が在中していない離島もあります。そのような環境にお住まいの方々への支援推進の為に会員の皆様には、まずお住まいの地域又は職場がある地域において、「地域リハビリテーション活動支援事業（介護予防事業）はどんなことをしているのだろうか？」と興味を持っていただき、積極的に地域リハビリテーション活動に参加していただけると幸いです。



鹿児島大学病院
臨床技術部 リハビリテーション部門
川路 勇太
TEL：099-275-5704
FAX：099-275-6846

社会局（地域リハ・鹿児島市担当）

現在、POS連絡協議会の活動の一環で、地域リハビリテーション支援活動（お達者クラブへの講師派遣）を実施しております。まだまだ講師の希望者が少なく、講師をしていただける方を募集しております。活動に際して社会局が行っております研修の履修が必須となっておりますので興味のある方がいらっしゃいましたらご連絡下さい。

鹿児島市医師会病院
瑞穂 哲也



社会局（広報担当）

皆様、今年も9月1日がやって参りました！

もちろん皆さま、「言語聴覚の日」であることをご存知かと思います・・・。

この度、一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会は、鹿児島市内のイオンモール鹿児島様のご協力を得て、「ことばの相談会」を開催いたしました。以前はコロナ禍の影響で一時中断を余儀なくされましたが、昨年から再開し、今年は新型コロナウイルス感染症対策のための法的位置づけが5類に変更されましたので、感染対策を万全に施しつつ、県士会ロゴ入り風船を積極的に配布させていただきました。当日は24時間テレビのイベントも行われ、イオン鹿児島には空前絶後の多くのお客様が訪れ、県士会ロゴ入り風船が大人気となりました。イベントに参加されていたサンシャイン池崎さんにも風船を受け取っていただけたことも嬉しい限りです。

「ことばの相談会」では、ことばや聴こえ、飲み込みに関する疑問や、言語聴覚士への進路を希望する嬉しい相談まで幅広く対応させていただきました。特に、小児の言語発達に関する相談が多く寄せられ、県士会内の発達部会所属のメンバーが直接お話を伺い、ご相談に応じさせていただきました。皆さまからの多くの相談に心より感謝申し上げます。この機会を通じて、「言語聴覚士」という職業を広く知っていただけたことは非常に意義深いことであり、一方で、まだまだこの職業や「コミュニケーションの障害」というテーマに関する理解が深まっていない現状も垣間見え、引き続き普及活動に努めるべきであると考えている機会になりました。言語、聴覚、嚥下などにお悩みの方々への支援の輪をより一層広げるため、今後も積極的な広報活動を行ってまいります。

広報局では、「ことばの相談会」のような活動を通じて、言語聴覚士の専門知識や魅力を広く伝える取り組みを展開し、情報発信を行ってまいります。これからも会員の皆さまのご協力が不可欠です。皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



社会局 広報局員 小牧 祥太郎
鹿児島医療技術専門学校
言語聴覚療法学科

Tel 099-261-6161 Fax 099-262-5252



☆言語聴覚の日イベント☆
「ことばの相談会」の様子です。

↑
広報局員と発達部会のメンバーが
協力してくださいました。
この場をお借りして改めてご協力
に感謝申し上げます！！
ありがとうございました。



↑
こどもたちを笑顔にさせる必需品！！魔法の風船です。鹿児島
県言語聴覚士会のイベントでは
必須アイテムです☆



学術局 (新人教育)

学術局 新人教育では、9月9日(土)に第23回新人教育研修会を実施いたしました。

今回は「“臨床の壁”を楽しく乗り越える～経験と体験を交えて～」をテーマに、NPO法人にし理事長の山下律子氏に講演頂きました。

県内外より18名のご参加を頂き、経験年数は1年目～超ベテランまで、非常に幅広い参加層でした。体験談を共有する時間では、経験年数ごとの経験談を参加者の皆様にお話頂き、共有することができました。最後には、お互いの「自己紹介＋一言」をお話する時間を設けました。個人的にとっても嬉しかったのは、参加者の皆様が所属とお名前だけでなく、研修会の感想、趣味などについても触れて頂いたことでした。趣味、好きな食べ物、得意な楽器、スポーツなどの話題もあり、ハイブリッド開催でありながら親近感を覚えずにはいられず、「もっと知りたい」「もっと話したい」と思える方ばかりでした。

今年度も午前中は生涯学習の基礎講座、午後は新人教育研修会という日程で計画しようと考えております。生涯学習だけ出てランチして帰るのも良いですが、ランチはコンビニで済ませて新人教育研修会に参加した後、ちょっと早めに夕食へ、というプランもありではないでしょうか(次の日はしっかりお休みを取っておきましょう！)。

県土会の研修会の最大のメリットは、共に悩み、研鑽を積もうとする、熱量を持つ仲間と出会えることではないかと思えます。楽しく研鑽を続けられる同志と出会える場所として、是非研修会を利用頂ければ幸いです。

新人研修会で扱ってほしい内容などありましたら、木佐貫までお気軽に連絡ください。明日からの臨床が少しでも楽しく充実したものになるよう、お手伝いさせて頂ければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



鹿児島第一医療リハビリ専門学校
言語聴覚学科 木佐貫 太陽

「こんな研修会してほしい！」はこちらまで！

【Mail】 taiyo.kisanuki.st@gmail.com

【TEL】 0995-48-5551 【FAX】 0995-48-5553

学術局 (生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

令和5年2月12日(日)は基礎講座1『臨床のマネージメントと職業倫理』、基礎講座2『臨床業務のあり方、進め方』を講師に株式会社L・はぴねすの西野将太氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)致しました。基礎講座1、基礎講座2ともに21名ずつが県内から参加して頂きました。基礎講座1は基本的な倫理について再度学び、言語聴覚士としての在り方を学べるとても有意義な時間でした。基礎講座2は日頃の臨床を見直す良い機会になりました。

また、令和5年9月9日(土)は基礎講座3『職種間連携』、基礎講座4『言語聴覚療法の動向』を講師に鹿児島県言語聴覚士会の染川眞喜代氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)しました。次回号で結果等の報告をさせて頂けたらと思います。

基礎講座に関して、1度受講した方はもう受講しなくて良いと思っていませんか。私はそう思っていました。基礎講座資料は毎年内容が更新されており、近いうちに大幅な変更予定もあるようです。毎年は難しくても、数年に1度は聴いて損はないと毎回受講している私は思います。

基礎的な部分だからこそ、経験を重ねて分かる部分も多い内容となっていますので、是非1度受講した方もご参加を検討してみてください。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
リハビリテーション部 尾崎 幸平

TEL : 0993-32-9999 FAX : 0996-32-0496



学術局 (成人)

学術集会・研究会における口述発表では、多くの聴衆は、何をどこまで明確にした発表なのかを詳しくは知らないため、発表者には聴衆とうまくコミュニケーションがとれるように重要な点だけに絞った内容を、簡潔なスライドを用いて発表することが求められています。



私は、スライドを作成する際に、論理的な展開になっているかを確認しつつ、基本（フォント、文字数、揃え方、色のコントラスト、図・表の見え方、スライドを通したルールの一貫性等）のルールを守れているか配慮しながら作成するようにしています。私自身も明確なルールを習ったことがある訳ではありません。諸先輩方にご指導を頂く度に、書籍やインターネットの検索エンジンを多用し「発表スライドの基本ルール」「伝わるデザイン」などの用語を調べ、せめて基本だけは押さえられるように少しずつ自分なりの型を作っている感じだと思います（現在進行中です）。

近年、オンライン発表の機会が増えたことにより、「著作権」に改めてフォーカスが当たるようになりました。それは、オンラインによる発表は、著作権法上の「公衆送信」にあたると考えられるからです。発表者は、良かれと思って提示している先行研究の結果や画像であっても、引用の方法が各学会の指針やガイドラインに準じていない場合には、今後は、知らなかったでは済まされない事態が生じることも想定されます。無論、現地発表の場合においても著作権に留意する必要があることは、言うまでもありません。

「型破りというのは、元の型があるから型破り。型がなければ型なし」とおっしゃったのは歌舞伎俳優の中村勘三郎さんです。きちんと基礎を徹底的に身につけたうえで、自分の個性を発揮することの重要性を端的に示されたのだと思います。継続することの中で、気づき・気付かされながら基礎のある型を作り、少しずつ自分らしさを発揮できたら良いなあ・・・と思っています。

学術局 成人学術担当 小倉道広

学術局 (小児)

今年の夏は外出するのも嫌になるほど猛暑が続きましたが、会員の皆さんは花火大会にプール、お祭りなど楽しい夏の思い出をつくることはできたでしょうか？（私は、久しぶりに日本ST学会に参加でき、また去年行けなかった海水浴に花火と楽しめました！）

小児学術局では、「鹿児島発達STネットワーク」のLINEを活用し、研修会やイベントの案内、また会員同士の情報交換の場としても利用していただいています。参加者も年々増えてきていますが、小児に限らず成人領域を対象にしている方や興味がある方など、どなたでも参加可能ですので、ぜひ迷っている方はいつでもご参加下さい！（招待など不明な点がありましたら、小児学術局担当 松永までご連絡いただければ対応致します。）

小児臨床や支援に関わる会員も増えてきている中で、個々人もしくは数人での対談や相談、オンラインでの会話などがここ数年で主流となりました。小児学術局としては、発達部会と協力しながら、会員同士の交流や情報交換など「横の繋がり」を深める為にも、今年度は対面での茶話会や懇談会が開催できればと考えています。まだ、日程は未定ですが詳細が決まりましたら、LINE等でもお知らせしますので多くのご参加をお待ちしています！

学術局小児学術担当
児童発達支援事業所 bamboo
松永宏行



財務局

会員各位

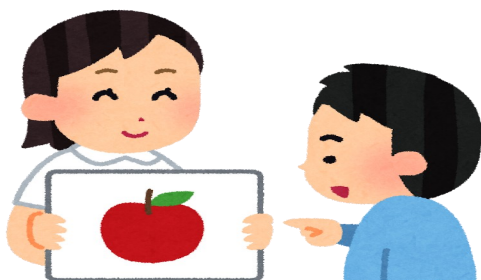
平素より県土会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。二年未納になりますと退会処分となりますので、ご注意下さい。まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp

担当 鎮守美和



☆編集男紙☆

会員各位 いつもニューズペーパーをご覧くださいありがとうございます。今回の編集は三船病院の大島です。これまでも広報局員として広報活動へ協力させていただいておりましたが、この度、社会局広報担当「理事」として就任し身の引き締まる思いで編集をしております。今まで以上に会員の皆様に少しでも良い情報をご提供できればと考えております。

また広報局では、広報活動へ興味があり、ご協力いただける会員の方を随時募集しております！興味のある方は是非、ご一報ください。（[お問い合わせ - 一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会 \(st-ba.net\)](http://st-ba.net)）我々、広報局員と一緒に鹿児島県の皆様へ言語聴覚士という存在を…仕事や役割を…これから来る少子高齢化社会の中での活躍できる場が多くあることを知ってもらいましょう。また、会員の一人一人がその役目を担っていることもお忘れなく日々の業務に励んでいただきたいと願っております。

末筆になりますが、新型コロナによって制限されてきた対面での会合が少しずつ緩和されつつあり、これから皆様と顔を合わせてお会いできる機会が増えていくことを心から楽しみにしております。今後ともよろしくお願いします。

大島 亮平